



株式会社 しあわせのひとさじ
代表取締役

菅原 貴江

ホテルウーマンから専業主婦へ、そして夜職、さらにチョークアーティストなど、多彩な才能を発揮し、様々なキャリアを蓄積してきた菅原社長。その後、福祉業界に飛び込み、家族の介護をきっかけに2021年に起業した。そんな社長がご利用者様と接する際に大切にしているのが、「共に楽しい時間を過ごす」というスタンスだという。使命感で身を削るのではなく、あくまでも自然体で共に日々を楽しんでいるのだ。

**「共に楽しい時間を過ごすというスタンスで
ご利用者様と向き合っていたい」**

株式会社 しあわせのひとさじ リハ&スパ 憩いの杜 デイサービス

宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘 1 丁目 7-8 コウワビル 102

ご利用者様とその家族に寄り添い、 毎日にひとさじの幸せを——



「持ち前の行動力で様々なことに挑戦されており、
バイタリティが旺盛で素敵なお人柄が窺えました」

島崎 俊郎

タレント

special

column | 機能訓練に特化した二部制のデイサービス

▼「しあわせのひとさじ」が運営する『リハ&スパ 憩いの杜 デイサービス』は、朝から夕方まで過ごす一般的なデイサービスとは異なり、半日型入浴付きの機能訓練に特化したデイサービス。「私たちもいずれは年をとりますし、家族や介護の専門家の方の手を借りる時がくるでしょう。若くても脳梗塞で倒れて、麻痺になった人もいます。自分だって例外ではありませんし、いつ介護が必要な身体になるか分からないんです」と菅原社長。そういった考えもあり、高齢者だけを対象にするのではなく、機能訓練に特化したデイサービスを選択したとのこと。「様々な仕事に携わってきましたが、この仕事が自分に合っていると思いますし、やり甲斐を感じています。少しでもご利用者様、ご家族のお役に立てれば」と意欲を見せている。



「ご縁があった方に、ひとさじのエッセンスを。
そうして今より幸せになってほしいのです」

代表取締役

菅原 貴江



interview

半日型入浴付きリハビリデイサービス『リハ&スパ 憩いの杜 デイサービス』を運営する『しあわせのひとさじ』。菅原社長は様々なキャリアを経て福祉業界で経験を重ね、家族の介護をきっかけに起業に至ったという。タレントの島崎俊郎氏が社長にインタビューを行った。

——早速ですが、菅原社長のこれまでの歩みから順にお聞かせください。

埼玉県大宮市の出身で、中学に入学する時にここ宮城県に移りました。子どものころは保育士や幼稚園の先生に憧れていましたが、学業修了後はホテルに就職し、事務からフロント、結婚式場、宴会場、レストランまで、様々な部署でキャリアを蓄積。その後は結婚して、しばらくは専業主婦でした。夫が家庭に入ることを希望していましたし、私も当時は主婦も良いかなと思って受け入れたんです。けれども、元々外に出て活発に動き回ることが好きなので、5年目で限界がきてしまいました（笑）。

——その間も働きたいという想いを抱えておられたのですか。そこから、現在の福祉の世界に飛び込まれたのですか。

いいえ。福祉はまだ先なんです（笑）。私の母が水商売をされていて、80歳になる今も福島でバーのママをやっているんですね。そんな母を見ていたので、私も一度水商売をやってみたいと思ってはじめてものの、1年ほどで身体を壊してしまいました。お酒も飲むし、昼夜逆転の生活で無理をしたのが祟ったのでしょう。見かねた母から辞めたほうがいいと言われ、その道を断念しました。

——その後はまた別のお仕事を？

はい。昔から絵が好きだったので、

チョークアートの資格を取得して、個人事業主でチョークアーティストとしての活動を始めました。チョークアートというのは飲食店の看板として使われている黒板に、メニューや絵を描くアートです。また、その一方ではジャズバンドのボーカルやボイストレーナーとしても活動するようになり、それは今も続けているんですよ。

——社長は多彩な才能をお持ちでいらっしゃる。

ありがとうございます。その後、私の弟が福島の郡山でデイサービスを開業したので、そちらでお手伝いをさせていただくことになったことが、福祉の世界に飛び込んだきっかけです。よく介護は大変だと言われますし、実際にご自宅で介護をされているご家族は大変だと思いますが、デイサービスは通所施設で宿泊もなかったので、それほど大変だと思いませんでした。それに、誤解を恐れずに申し上げれば、私は仕事として使

命感をもって取り組むとか、お世話をしあげているということを考えていたわけではありません。単純に、ご利用者様とお友達になって、一緒に楽しい時間を過ごしましょうという感覚なんです。一方では排泄介助などで介護現場の現実を見て無理だと判断する人も多いですよね。私も最初は緊張しましたが、思っていた以上にスムーズに馴染むことができました。

——独立については、何かきっかけがあったのでしょうか。

義父が倒れて介護が必要になったことがきっかけでした。それで郡山から仙台に戻り、義母と一緒に家族として介護に携わることになったんです。私は介護の経験者ですし、家族だけで大丈夫だと思っていたのですが、実際は違いました。やはり身近な家族になるとお互いに気を使ってしまう場面も多く、外部の方をお願いするのが良いと感じて、介護サービスを利用するようになったんです。そう

した経験をしたことで、改めて介護をされているご家族のお手伝いをしたいという思いに至り、起業へと結びつきました。2021年に法人を設立し、2022年の今年、10月に『リハ&スパ 憩いの杜 デイサービス』をオープンする予定です。

——お勤めの時と、起業されてからでは変わったところはありますか。

義父の介護を機に、考え方が大きく変わりました。自宅で介護をされている場合、介護する側もされる側も、お互いに言いたくないことを言って不穏な空気になることが多々あると思うんです。その中でぎくしゃくするのなら、少しの時間でもここにきていただいて、ご家族がホッとできる時間にしてもらえたらと。身を以てそう思えるようになりました。

——ご家族のために、と思っただけでも、当事者にならないと分からないこともあるのでしょうか。

ええ。例えば寝たきりだと数時間おきに姿勢を変えてあげないといけないので

寝不足になることもありますし、認知症の場合は徘徊があったり、被害妄想から外で家族の悪口を言ったりしてしまうことも。そうしたことの積み重ねで、精神的に病んでしまうご家族も多いんです。そういった面を少しでもサポートできたらと思っています。

——では最後に、これからの夢や目標をお聞かせください。

まずはこの事業所を大事に育てていくことですね。そうしてしっかりとした基盤を築くことができれば、その時にまた新たな事業所展開を考えれば良いかなと思っています。先を見るよりも、まず目の前のことを大事に。そして地域の方々と共存していきたいですね。『しあわせのひとさじ』という社名には、ご縁があった方々にひとさじのエッセンスを加えて、今より幸せになってもらえるようにという理念を込めたので、その思いをかたちにしていきたいと思っています。

(2022年8月取材)